

2 日英外交関係*

153 昭和11年6月26日 在英國吉田大使より
有田外務大臣宛(電報)

英國國王へ信任状およびリス・ロス派遣に
関する前國王親書への天皇答翰奉呈について

付記一 五月十六日付松平(恒雄)宮内大臣より有田外務
大臣宛公信宮發第二四二號
右天皇答翰について
二 右天皇答翰英訳文

ロンドン 6月26日後發
本省 6月27日前着

第三五八號

本二十六日午前十一時半「バツキンガム」宮殿ニ於テ「エ
ドワード」八世陛下ニ拜謁後信任狀並ニ天皇陛下御答翰ヲ
捧呈ス(外相代理「バンシタート」侍立ス)

本使ハ陛下ノ朝廷ニ於ケル大使タルヲ無上ノ光榮トスト言
上シ御信任狀捧呈後英國先帝陛下ヨリノ御親書^(編注)ニ付天皇陛
下ノ御答翰ハ松平前大使ノ歸任意外ニ遅延ノ爲遂ニ本使カ

編注 『日本外交文書』昭和期II第一部第四卷第565文書。

(付記一)

宮發第二四二號

(5月16日接受)

昭和十一年五月十六日

宮内大臣 松平 恒雄(印)

外務大臣 有田 八郎殿

英國皇帝陛下ヨリ同國政府首席經濟顧問來航使命ニ
関スル親書ニ對セラルル御答翰御發送ニ関スル件

故英國皇帝ゾーヂ第五世陛下ヨリ

天皇陛下へ寄セラレタル同國政府首席經濟顧問サー、フレ
デリック、ウイリアム、リースロス來航使命ニ関スル親書
ニ對セラルル御答翰別封一通御發送遊ハサレ候條今般英國
へ赴任ノ吉田大使ヲシテ同國皇帝陛下へ贈呈セシメラルル
様御取計相成度候

(別紙)

朕ノ良兄

之ヲ携帶スルニ至レル次第ヲ申上ケタル處陛下ニハ其ノ次
第ヲ諒トセラレタル旨答ヘラレ更ニ本使ヨリ五月十九日天
皇陛下ニ拜謁ノ際特ニ英國皇帝陛下並ニ皇室ニ對シ宜敷ク
傳ヘヨトノ御錠アリ拜謁後廣幡皇后宮太夫ヨリ他トノ振合
モアリテ陛下ノ御言葉ハ簡單ナルモ英國皇室ニ對シ格別敬
愛ノ念ヲ有セラルル深キ思召ヨリ出テタルコトト承知スヘ
シトノ特別ノ注意アリタル次第

並ニ皇太后陛下へ拜謁ノ初先年今上陛下御渡英ノ際先帝及
「メリー」皇太后陛下ヨリノ敦キ優遇ヲ思ヒ出テラレ先帝
陛下崩御ニ對シ深キ哀悼ノ御言葉アリタルコトヲ申上ケタ
ル處陛下ハ深厚ナル謝意ヲ申述ヘラルルト共ニ日本御來遊
ノ際ノ思出ヲ語り出テラレ秩父宮殿下ハ今何レニ居ラルル
ヤ高松宮殿下ニハ江田島ニテ御會ヒ致シタリトテ日本へ曾
遊ノ記憶今尙新タナリ等語ラレタル後最後ニ貴大使カ當地
ニ於ケル在任ノ愉快ニシテ成功ヲ希望ストノ敦キ御言葉ア
リテ拜別ノ握手ヲ賜ハリタルニ付本使ハ隨員ヲ各別ニ紹介
シ陛下ニハ一々握手ヲ賜ハリ一同正午頃退出セリ

隨員ハ藤井參事官、蜂谷、寺崎、長谷川各書記官並ニ藤
田、丸山兩武官ノ六名ナリ

大不列顛國皇帝陛下ニ復ス

陛下ノ政府首席經濟顧問サー、フレデリック、ウイリア
ム、リースロスノ來朝ニ際シ父帝陛下カ同人ヲシテ持參セ
シメラレタル親翰ハ深甚ノ欣喜ヲ以テ接受セシ所ニシテ朕
ハ適當ナル朕ノ臣民カ貴國ニ赴ク際親シク返翰ヲ父帝陛下
ノ膝下ニ致サンコトヲ期シタルモ遂ニ其ノ機會ヲ得サリシ
ハ遺憾ニ堪ヘス今從三位勳一等吉田茂ヲ特命全權大使トシ
テ闕下ニ派遣スルニ當リ朕ハ親シク友情ト好意ノ至情トヲ
陛下ニ致サントス

日英兩國間ノ諒解ヲ促進シ且通商上ノ活動ヲ圓滑ナラシメ
ンコトハ朕ノ夙ニ切望スル所ナリ朕ハ常ニ平和ノ増進ヲ希
圖セルヲ以テ朕ノ政府ハ此ノ目的ヲ達成センカ爲今ヤ特ニ
東亞秩序ノ安定ヲ期シ専心努力シツツアリ而シテ此ノ政策
ノ遂行ニ當リテハ朕ノ政府ハ帝國カ特ニ其ノ地理的近接等
ノ理由ニ鑑ミ中華民國ニ於テ特殊且緊要ナル利害關係アル
ヲ顧念スルト共ニ貴國カ同國ニ於テ多年保有セル利益ノ重
要性ニ關シテモ亦十分ノ理解ヲ有スルモノナリ

從テ貴我兩國ノ利害關係ヲ有スル事項ニ付兩國政府間相互
ニ協議協調ヲ行ハンコトハ兩國國民ノ利益ニ貢獻スル所大ナ

ルヘシトノ父帝陛下ノ御所信ニ對シ眞ニ同感ノ情禁スル能ハス朕ハ朕ノ政府ヲシテ切ニ此ノ精神ヲ體シ日英友好關係ノ増進ニ當ラシムヘキヲ茲ニ確言セントス
此ノ機ニ際シ朕ハ陛下ニ對シテ重ネテ至高ノ敬意ヲ不渝ノ友情ヲヲ表ス

昭和十一年五月十五日

東京宮城ニ於テ
陛下ノ良弟
御 名

(半信11)

Sir, My Brother,

When Sir Frederick William Leith-Ross, Chief Economic Adviser to Your Majesty's Government in the United Kingdom, visited these shores, His late Majesty charged him to deliver Me a personal message of goodwill written on the 7th of August last, which I received with great pleasure. I was hoping to entrust My reply

vital interests in China, they do not fail to appreciate to the full the importance of the British interests which have existed there for so many years.

I, therefore, cannot but reciprocate wholeheartedly His late Majesty's conviction that mutual consultation and collaboration between Our respective Governments in matters affecting the interests of both countries will best serve the interests of the two peoples and I can assure Your Majesty that I will cause My Government to promote friendly relations between Great Britain and Japan in complete accordance with this spirit.

I avail Myself of this opportunity to renew to Your Majesty the assurances of the invariable friendship and highest esteem with which I am,

Sir, My Brother,

Your Majesty's

Good Brother,

Signed: HIROHITO.

The Palace, Tokyo,

thereto to some suitable person from among My subjects who might visit Your country and present it personally to His late Majesty. It is a source of profound regret to Myself that such an opportunity was after all denied Me. As I have, however, now commissioned Shigeru Yoshida, Jusammi and First Class of My order of the Sacred Treasure, to proceed to Your Majesty's court as My Ambassador Extraordinary and Plenipotentiary, I take the occasion to address to Your Majesty this personal message of friendship and goodwill.

It is My sincere desire to promote good understanding between Great Britain and Japan and to harmonize the trading activities of both nations. I earnestly hoping to develop the peace of the world, My Government are sparing no efforts to secure that end and particularly to establish stability in East Asia. In pursuing that policy, while My Government, especially in view of such matters as the geographical proximity of the two countries, are naturally much concerned about Our especial and

this fifteenth day of the fifth month
of the eleventh year of Showa.

To

My Good Brother,

The King of Great Britain,

etc., etc., etc.

154 昭和11年7月16日 在英國吉田大使より
有田外務大臣宛(電報)

日英接近が実現しない原因につき英國海相
(前外相)と意見交換について

ロンドン 7月16日後発
本 省 7月17日前着

* 第三九五號

(b) 十四日「モニング・ポスト」ノ「グイン」ハ「サー、サミュエル・ホアー」、「ロード・チレル」、「サー、ワレン・フイシャー」、「サー、ホレス・ウイルソン」及「エドワード」等豫テ日英關係ヲ心配セル同志ニ本使ヲ紹介スル爲メトテ晚餐ヲ催シ吳レタル席上「サミュエル・ホアー」ハ其

ノ外相在職中日英接近ノ爲メ盡力シ來レル次第ヲ細カニ述
 へ自分ハ何故ニ兩國カ更ニ親密ナル關係ニアリ得サルカヲ
 豫テヨリ疑フモノニシテ印度事務大臣ヲ長ク勤メ居タル關
 係モアリ極東ノコトニ付別段意ヲ用ヒ居リ松平前大使トモ
 常ニ隔意無ク話合ヒ種々手段ヲ盡シテ接近ヲ求メタル處却
 テ自分ノ希望ヲ裏切ルカ如キ事態ノミ生シ來リ滿洲ニ於ケ
 ル英國貿易ニ對スル障礙、石油、捕縛、北支密輸、税關等
 ニ關スル面白カラサル問題續出シ支那ニ於ケル日英提携親
 善増進ノ目的ヲ以テサレタル「リースロス」ノ派遣モ遂ニ
 豫期シタル效果ヲ生セス事態ハ自分ノ誠ニ意外トシ且
 甚タ失望禁スル能ハスト言ヘルニ付

② 本使ヨリ日英ノ間面白カラサル問題續出スルハ依テ來ル原
 因アリ此ノ原因ヲ取去ラサル限り今後モ斯ル問題ノ續出ス
 ルヲ豫期セサルヲ得ス我方ニ於テモ親英氣分カ明カニ現存
 スル事實ハ本使ノ確言シ得ル處ナリ然レ共又既往ヲ顧ミレ
 ハ特ニ滿洲事件以來英米輿論カ日本ニ對シ相當矯激ナルモ
 ノアリ或ハ條約違反平和攪亂ノ罪ヲ負ハシ「サンクシヨ
 ン」適用ヲ以テ威嚇シ我國ニ於テ所謂「一九三六年ノ危
 機」ナル標語サヘ生スルニ至リ英ニ對スル「リジエントメ

たいとの英国外相意向について

ロンドン 7月17日午後
 本省 7月18日前着

第三九九號

① 今十七日朝外相ノ招ニ應シ新任ノ揆揆ノ爲外務省ニ往訪ス
 外相ハ甚タ親シケニ本使ノ來英ヲ待ツコト久シカリシ旨
 ヲ述ヘ座ニ招シタルニ付本使ハ先ツ英國皇帝昨日御遭難御
 無事ヲ祝ヒ帝國政府ヨリハ何レ御見舞申上クルコトト存ス
 ルモ本使個人トシテ不取敢祝辭ヲ呈スト述ヘ更ニ往電第三
 五八號ノ御親翰並ニ英國皇帝並ニ「クイン、メリー」ヘノ
 天皇陛下、皇太后陛下ノ御旋ノ趣旨ヲ傳ヘタル處外相ハ謹
 聽ノ後靜ニ思召誠ニ有難ク承ハル趣ヲ答ヘ更ニ別ケテ本使
 カ今回御答翰ヲ携帯セルヲ謝シ自分一己トシテモ亦貴國ニ
 對シ重大ナル關心ヲ有シ現下ノ形勢ニ於テ日英提携ノ重大
 ナル意義ヲ有スルニ顧ミ是非共兩國ノ親交ハ益々増進セサ
 ルヘカラサルコトヲ夙ニ考フルモノニシテ本使ニ充分ノ盡
 力ヲ希望スル旨述ヘタルニ付本使ハ我國上下ヲ通シ親英氣
 分ノ存スルハ明確ニ之ヲ確言シ得ル所ニシテ現内閣閣僚別
 ケテ首相、外相ハ對英關係ヲ重視ス

ント」相當深ク英國側ノ我ニ對スル誤解アル如ク英國側ニ
 對シ我亦相當根強キ誤解ノ伏在スルモ事實ナリ斯ル感情ヲ
 消滅セシムルノ手段ヲ執ラスシテ卒然「グッドウィル、ミ
 ツシヨン」ヲ送出サルルモ其ノ「ミツシヨン」カ失望スヘ
 キ結果ニ終ルハ致方ナシ先ツ以テ雙方充分ノ了解アル「グ
 ラウンド」ヲ用意セサルヘカラスト言ヘル處「ホアー」ハ
 保守黨内閣ノ存在スル時ニ於テコソ日英接近ハ之カ實現ヲ
 見ルノ最大ノ可能性アリテ今日ニ於テ之ヲ爲ササレハ不可
 ナリト自分共ハ固ク信スルカ故ニ種々苦心スル次第ナリ
 云々ト言ヘリ餘談ニ移リテ獨逸ハ獨逸協定ニ依リテ歐洲ノ
 安定ヲ促進スヘキヤト問ヘル處本協定ハ偶々獨ノ極端派ヲ
 シテ更ニ一步ヲ進メテ他ノ要求ヲ案セサルヤノ危険アリ
 仲々安定迄行クマシト言ヘリ依テ植民地恢復例ヘハ「ダ
 ンガニーカ」ノ要求アラハ之ニ英國政府ハ應スルヤト言ヘ
 ルニ英ノ答ハ明確ニ「ノー」ナリト言ヘリ

155

昭和11年7月17日

在英國吉田大使より
 有田外務大臣宛(電報)

日英外交調整のため今後隨時日本側と話し合い

② 唯如何ニ此ノ親英氣分ヲ「クリスタライズ」スルカカ緊急
 ナル問題ナル處昨今北支那地方ニ小事故ノ續出シテ徒ニ兩
 國輿論ヲ刺戟スルヲ遺憾トスト言ヘル處實ハ今朝モ北平ノ
 日本新聞カ甚タ英國ヲ誹謗セル記事掲(載)ノ報告ニ接セリ
 其ノ内容ハ餘リニ詰ラヌモノニテ茲ニ御話スル程ノコトニ
 モアラサレハ後刻書面ニテ參考ニ御覽ニ入ルヘシスノ如キ
 コトヲ初對面ノ今日申スモ甚タ異様ナ話ナルカスル詰ラヌ
 コトノ爲ニ兩國國交ニ面白カラヌ氣持ヲ生スルコトハ何ト
 シテモ避ケ度キカ故ニ率直ニ御話致ス次第ナリ何事ニ依ラ
 ス率直ニ打明話コソ了解ヲ得ル所以ナルニ付今後遠慮ナキ
 御話ヲ承ハリ度ク何時ニテモ都合シテ御面會致スヘケレハ
 御出アリタシ實ハ數年來休暇ヲ得ル能ハス渾沌タル時局疲
 勞ヲ感スル少カラス數日休養ヲ餘儀ナクセラレタル爲其ノ
 前御目ニカカル能ハサリシカ身心モ恢復シタレハ最早御心
 配下サレ間敷クト甚タ打解ケタル能度ニテ應接シ會見ヲ終
 レリ

156

昭和11年7月20日

在英國吉田大使より
 有田外務大臣宛(電報)

満州国による貿易取極不履行に不満を抱く英
国産業連盟の面子を立てるため契約履行方意見具申

第四〇三號

ロンドン 7月20日後発
本省 7月21日前着

十七日「エドワーズ」ノ招ニテ「バーンビー」卿「サー、チャールス、セリグマン」、「ロコック」等ト會食ノ節「バ」卿ハ腹藏無キ所感ヲ述ヘ度シトテ昨年来朝ノ砌ノ次第ヲ語出シ例ノ新京ニ於ケル取極カ今日迄遂ニ何等履行セラレス之カ爲一行ノ威信ヲ傷ケ痛ク失望セリトテ談笑ノ中ニモ極テ眞剣ニ語出テ「セリグマン」、「ロコック」亦之ヲ補足スルト共ニ日本ノ一般對支政策ニモ論及シ可成リ不満ノ意ヲ漏ラシタルニ付本使ヨリ一應ノ應酬ヲ試ミ置キタルカ尙會食後「ロコック」ヨリ前電金庫ノ件ハ既ニ米國側ニ落札セル旨報告アリ價格ノ點モ左ルコト作ラ英國品中(ニハ)品質カ價格如何ニ拘ラス到底他國品ト比較出來サル獨特ノモノモアリ旁本件取極ノ實行方一層考慮ヲ希望スル旨申出テタリ

別電第四一二號ノ通り松岡總裁へ申進メ度キ處御差支ナクハ同電同總裁へ御轉報煩度シ

(別電)

第四一二號

ロンドン 7月22日後発
本省 7月23日前着

近時日英關係ニ一抹ノ暗影ヲ見逃スヘカラサルモノアリ之カ原因ハ主トシテ英國ノ對滿對支貿易減退及在支權益ニ對スル危惧ニ存スヘク近次滿洲國及北支ニ於テ頻出スル事故カ事毎ニ外電ニ依リテ棒大ニ傳ハルモ亦此ノ邊ノ心理ニ出ツルモノナルハ想像ニ難カラサル處斯ル空氣ノ下ニ「バーンビー」使節渡滿ノ際ノ滿洲國トノ間ノ取極ニ對シ滿洲側ノ不履行ハ「バーンビー」一行ハ素ヨリ其ノ一味ノ實業家ニ於テ不滿ヲ助長シ歸英當座「ミツシヨン」カ成功ナリシト信セラレ評判ノ好カリシ丈ケニ一層「リゼントメント」ヲ深メツツアリ滿洲國側ヨリセハ其ノ需要ノ有無、價格等言分ハ有之ヘキモ英國側カ價格高キ丈ケニ優良ノ點アリ寧ロ其ノ品質ノ優良ヲ確信シテ價格ハ問題トナラスト自信シ

以上一行ノ内心懷キ居ル不滿ハ相當大ナルモノアルカ如ク歸英後日本ノ爲ニ種々辯明若ハ主張セル言論ノ手前今ヤ其ノ立場ニ窮シ頗ル苦境ニ立テルハ種々ノ方面ヨリ聞込アリ就テハ「バ」一行ノ面目ノ立ツ迄多少ニ拘ラス本件取極履行方大局ニ顧ミ是非御措置相成様致度ク何分ノ儀御同電アリタシ

157

昭和11年7月22日
在英國吉田大使より
有田外務大臣宛(電報)

英國産業連盟の満州国での貿易取極履行に関する進言を満鉄總裁へ転報方要請

別電 七月二十二日発在英國吉田大使より有田外務大

臣宛第四一二号

右進言

ロンドン 7月22日後発
本省 7月23日前着

第四一一號

往電第四〇三號ニ關シ「バーンビー」卿一行ノ新京ニ於ケル取極履行方ノ件)

ツツアリ又英國側ノ斯克自信スルニハ相當ノ根據ナキニアラサルヘク故ニ價格高キハ滿洲側不履行ニ對シ理由トシテ英國側ノ承服シ難キ所ナリ

殊ニ滿洲國トシテモ註文ノ意思アリシカ故ニ取極ヲ交ヘタルモノトモ解シ居リ多少ノ損失ハ兎ニ角トシテ滿洲國ノ面目論トシテモ亦政治的ニ再考慮セラレ註文ヲ發セラルルカ機宜ノ處置ト思考ス目下ノ日英關係カ本件ノ註文發送ノミニテ直ニ改善セラルルモノトハ素ヨリ思考セラレサルモノ之ニ依リ斯カル際幾分ノ緩和劑タルヲ得ヘク事情御了承ノ上關東軍最高顧問トシテ滿洲國側ニ然ルヘク御進言相成度シ尙又滿洲國顧問トシテ當地ニアル「エドワーズ」ヲ本年限り解雇スヘシトノ滿洲國側意嚮ナル處「エ」ハ目下日滿問題ニ付少カラス活動シ居ル次第ニモアリ過日拙信差進メ置キタルモ同人ヲ引續キ從來通り雇傭方併セテ御盡力煩度シ

158

昭和11年7月25日
在英國吉田大使より
有田外務大臣宛(電報)

親日的保守党有力者による対日関係改善の試みにつき注意喚起

第四二五號

往電第四一〇號ニ關シ

同日ノ上院討議ハ今期當國議會中上下兩院ヲ通シ極東問題ニ關シ英國側ノ抱懷スル對日感ヲ最率直ニ反映シ居ルモノトシテ重要視スヘク即チ右討議ニ現レタル注意スヘキ點ハ、保守黨一派ハ今尙依然トシテ傳統の日英友好關係ヲ棄テス日常頻發スル日英間ノ事務的紛爭處理ヲ超越シ大局的ナル國際情勢ヨリ日英關係ノ調節ヲ必要トシ何故ニ今日ノ機會ニ英國政府自ラ進ンテ調節ヲ試ミサルヤト爲シニ所謂外務事務當局ニ擁セラルル政府側ハ極東ヲ始メ世界各地ヨリ報告セラルル地方的日英紛爭事件ノ處理ニ直面シツツアル關係上其ノ對日感ニモ自然影響シ進ンテ調節ニ乗出ス迄ノ氣分ニ至ラス

三、勞働黨ニ至リテハ其ノ立場上蘇聯邦側ヨリ種々ノ情報ヲ得ル結果親蘇のニシテ相當我ニ對シ誤解ヲ有シ我ハ蘇ニ對シテ侵略的態度ヲ持スルカ如ク感シツツアルモノノ如シ

ロンドン 7月25日後発
本 省 7月26日前着

「イシヨナル」ナルカ多少世論ヲ刺戟スヘク「レディー、アスター」等米國猶太人系ノ英米提携論ノ外前記我政策ヲ以テ大陸主義、侵略主義ナリトシテ英米提携論ヲ爲スモノ近來漸ク多キハ目立タル現象ニシテ其ノ筆鋒ノ自然露支ニ有利ナルカ如クニ書キ爲サルハ露支ノ宣傳カ露支ニ同情アル者ノ手ニナルカ其ノ何レナルカヲ知ラサルモ兎ニ角日本今日ノ國情ニ於テ國際關係ヲ無視シテ侵略政策ニ盲進セントスル極端論ノ爲ニ我國策ノ左右セラるルナキヤトハ英政府當局ノ最懸念スル所ナルヘク

又英人一般カ我對支政策ニ對シ有スル疑惑ハ

(一)支那市場ノ獨占化

(二)我北支侵略行爲ノ進展

ナリ Lord Newton サヘモ其ノ上院演說ノ前日態々本使ヲ訪ネテ特ニ質ス所アリ本使ハ我北支行動ハ對露反共產ノ爲ニ已ムヲ得サルニ出テタル自衛手段ノミ支那ニシテ露ノ共產主義ニ對シ自ラ守ル力アラハ我行動自ラ異ルヘク支那市場ハ獨占ヲ許スニハ餘リニ大ナリ之カ繁榮ヲ招來スルコトニ依リテ日英貿易ノ衝突ヲモ緩和スルノ途ヲ考フヘキナリト申聞ケタル様ノ始末ナリ

之ヲ要スルニ英國目下ノ對日感ハ提携非提携何レスヘキヤノ最重大ナル岐路ニ立チ居ルモノノ如ク而シテ議會ニ於テ絶對多數ヲ擁スル保守黨ノ有力者カ極東政局ノ大勢ヲ考ヘ親日論ヲ堅持シ事務當局ヲ抑ヘテ相當切開ヲ試ミントシツツアルハ我ニ於テ充分注意スヘキ所ト思考ス

159

昭和11年8月1日 在英国吉田大使より
有田外務大臣宛(電報)

日英關係および英独關係に関する英国国内の
見方について

ロンドン 8月1日後発
本 省 8月2日後着

第四四五號(極秘)

(一)最近當國輿論ノ傾向ヲ見ルニ從來同文同種ヲ證據トスル感情の英米提携論ハ獨裁主義及我大陸政策ニ對抗ノ英米提携論ニ變轉シ來リ二十四日「エキスプレス」所載ノ Lord Beaverbrook 提携論(米誌「マーキユリー」八月五日寄稿)ハ更ニ進ンテ日本ハ濠洲ヨリモ加州ヲ襲フヘク英米ハ近ク軍事同盟ヲ結ハント言ヒ例ニ依リ「センセ

(二)英獨關係ニ於テ英ハ急速ナル獨裁軍備ニ重大ナル關心ヲ寄セツツアリ獨ノ「ライン」出兵ノ際ハ佛ヲ宥メ將來ノ爲建設的努力ヲ慫慂セルカ獨カ一部撤兵ノ英ノ勸告ヲ聽カス英ノ Questionnaire ニハ文書ヨリモ行爲ヲ以テ回答ヲ爲サントスル態度ニ對シテ甚タシク之ヲ不快トシ駐英大使任命ノ遷延迄モ故意ニ計ルカ如ク噂サルルニ於テ對獨好感冷却愈甚シキヤノ感無キヲ得ス

(三)外務次官「バンシター」ノ如キハ對獨政策ニ日夜没頭シテ他ヲ顧ミスト言ハレ其ノ此ノ度ノ訪獨ハ實狀實地視察ノ爲ナリトモ考フル者アリ英ノ防空軍備ハ近時全ク獨ヲ目標ニ英國東邊ニ集中セラルト言ハレ「ロード、ロイド」ノ如キ保守黨中ノ diehard サヘモ本使ニ英カ露ニ對シ斷然タル處置ニ出テサルハ英國防今後二年ノ後ニアラサレハ完成セサレハナリト言ヒ昨日外相面會ノ節「リッペンントロップ」カ先頃來英中對露關係ニ付何等カノ話合アリタリヤト夫レト無ク尋ネタル處全ク噂ニ過キス英ハ共產主義ノ爲ニ他國ノ如ク脅威ヲ感シ居ラスト明言セリ彼は綜合スレハ英ハ今日歐大陸目前ノ形勢ニ專念ニシテ他ヲ顧ミル遑アラサルカ如ク獨逸ノ行動ニ對シ深キ注

意ト疑惑ヲ以テ之ヲ監視シツツアルモノト存セラル

(編註二)

編註一 八月六日発在英国吉田大使より有田外務大臣宛電報第

四五七号により、「露ニ對シ」は「獨、露ニ對シ」へ訂正された。

二 本電は、八月五日発有田外務大臣より在英国吉田大使宛電報第一五四号により、在独国大使および在仏国大使へ転電するよう訓令された。

160 昭和11年8月1日 在英国吉田大使より
有田外務大臣宛(電報)

日英親善のため具体的な「スキーム」が必要
との提案に対する英国外相の反応について

ロンドン 8月1日後発
本省 8月2日後着

第四四八號

三十日午後外相ヲ往訪昨二十九日上院ニ於ケル「スタンホープ」卿ノ意政府ニ於テハ未タ日本ト協定ニ達スル意嚮無シトノ趣旨ノ陳述カ萬一日本ニ於テ惡ク解釋セラルル如キ

來日本ノ直面シ來レル國際關係ナリトモ言フヘク華府會議後日英米共ニ「ヤング、チャイニーズ」ノ好意ヲ得ルノ競争ヲ始メタル結果對支政策ニ於ケル國際協調破レ延イテ亂脈ナル支那ノ國情ヲ愈渾沌タラシメタリ斯テ日支、日英ノ親善關係ハ損ハレ滿洲モ英國ノ支持善解ヲ得タランニハ夙ニ圓滿ナル解決ヲ得ヘカリシモ遂ニ一九三一年ノ事變トナリ次テ上海事變ヲ惹起シ日本ヲシテ聯盟脫退ノ餘儀無キニ至ラシメ一方英米及壽府ニ於ケル輿論ハ益々反日的傾向ヲ帶ヒ經濟的制裁適用論ノ出現ヲ見タルハ御承知ノ通ナリ之カ日本ノ民心ニ衝動ヲ與ヘタル結果所謂一九三六年ノ危機ナル「スローガン」ヲモ生ミ出シ國民ニ自ラ守ルノ外無シトノ感觸ヲ深ク與ヘタルコト即チ「エクストレミスト」擡頭ノ原因ナリ

(3) 既往ハ兎モ角トシ何カ故ニ日英親善ノ實現不可能ナリヤト考フル點ニテハ過日ノ上院議員中ノ所論ト本使トハ見方ヲ別ニシ其ノ可能且相互ノ利益ナルヲ確信ス然レトモ之カ爲ニハ日英ハ其ノ國交ノ基礎條件ニ付充分ナル了解ヲ遂ケ相當具體的ナル「スキーム」ノ上ニ之ヲ置クヲ要ス此ノ素地ナクハ日英新舊二ツノ通商國民ハ到ル處ニ利害衝突ヲ起ス

コトアリテハト存シ貴大臣ノ内意ヲ承知シ度ク來訪セリト述ヘタル處外相ハ稍驚キタル面持ニテ同卿カ如何ナルコトヲ述ヘタルカ承知セストテ祕書官ニ命シ議事録ヲ取寄セ切リニ本使指摘ノ點ヲ探シ始メタルニ付本使ハ抗議ノ爲ニ來レルニアラス右ハ政府側所見ナルヘケレハ一應本使ノ私見ヲ申シ出テ度シト申出テタル處外相ハ「スタンホープ」ハ(Parliamentary) Parliamentary Under Secretary for Foreign Affairs タリシモ今日ハ其ノ地位ニアラス從テ其ノ所言ヲ以テ政府意見ヲ代表スト看做サレサランコトヲ希望スト述ヘタル後過日御面會ノ際モ御話セル通り日英ノ友好關係ハ余ノ特ニ念トスル所又余ノ年來ノ素願ナリ之レ余一己ノ意見ノミニアラス閣僚中余ト同様ノ見解ヲ有スルモノ多キヲ確言ス此ノ故ヲ以テ二十八日朝日ノ社説ハ余等ノ甚タ欣幸トスル所ナリト言ヘルニ付

本使ハ三十日「タイムズ」所載右朝日ノ記事ノ趣旨ハ一部日本有力者ノ見解ナルモ問題ハ是等人士ノ誠意ニハアラスシテ彼等カ「エクストレミスト」ヲ抑制シ得ルヤ否ヤニ存ストノ記事ヲ引用シ本使一己ノ所信ヲ忌憚無ク言ハシムレハ極端論者ノ擡頭シ來リタル主ナル原因ハ日英同盟廢棄以

ノミナラス現在ノ如ク「ピン、ブリック」ナル小問題ノ發生スラ防止スルヲ得ス即チ兩國外交當局者ハ全ク目前發生ノ各種ノ不愉快ナル諸事件處理ニ捉ハレ爲ニ日英親交ノ素地工作ヲ怠ルコトナキヤハ本使ノ俱ルル所ナリト述ヘタルニ外相ハ即座ニ兩國國交ヲ具體的「スキーム」ノ素地ノ上ニ置クヘシトノ貴見ハ甚タ興味ヲ以テ拜聽セリクトキ様ナルモ余ハ日英ノ親交ヲ願フ點ニ於テ何人ニモ譲ラサル次第ナレハ休暇後更ニ御話ヲ承リ度ク自分留守中「カドガン」ヘモ充分御話シ置キ願ヒ度シト述フ

終リニ臨ミ本使ヨリ本日新任駐支英大使ノ來訪ヲ受ケタルニ付前述ノ如キ日英支關係ニ付一應卑見ヲ申述ヘ置キタリト言ヘルニ外相ハ同大使ハ誠ニ氣持良キ紳士ニ付今後トモ打解ケテ御話ヲ願ヒ度シト述ヘタルニ付本使ハ同大使ニ對シ東京ニテハ外相、任地ニテハ我大使ト充分ナル接解ヲ保タレンコトヲ希望シ置ケリト答ヘタルニ外相ハ頗ル満足氣ニ見ヘタリ

161 昭和11年8月1日 在英国吉田大使より
有田外務大臣宛(電報)

新在中國英國大使の赴任に際しての來訪について

ロンドン 8月1日後発
本省 8月2日前着

*
第四四九號
往電第四四八號ニ關シ

新駐支大使「ナチブル、ヒュゲツセン」三十日本使ヲ來訪同大使ハ相當日支ノ立場ヲ理解シ支那問題ノ大局上日英提携ノ要ヲ考慮シ居ルモノノ如ク又數年前東京赴任ノ内命ヲ受ケ數箇月日本語研究ニ着手シタルカ今回赴任ノ途次米國經由日本ニ立寄り九月五日東京着數日英國大使館ニ滞在ノ由申シ居レルニ付其ノ節ハ我首相、外相等ト隔意ナキ懇談ヲ遂クル様本使ヨリ申進メ置キタルカ尙日英親善ニ付テハ我皇室ニ於ケレ軫念アラセラル旨ヲモ申聞ケタル處陛下ニハ和蘭在任中皇太子殿下トシテ拜謁ヲ得タル趣ニテ思召有難ク拜承スヘシト申シ居レリ就テハ貴大臣ニ於テモ充分御懇談ノ機會ヲ與ヘラレ度ク尙出來得ヘクンハ天皇陛下ニ拜謁ノ儀仰付ケラル様ノ都合トモナラハ日英關係ニ多大ノ效果アルヘシト信ス同大使トハ本月五日再會ヲ約シ置ケ

ヘ居レリ

163
昭和11年8月7日 在英國吉田大使より
有田外務大臣宛(電報)

滿州國が英國産業連盟との貿易取極を履行するよう尽力を求めるバーンビーよりの書簡について

ロンドン 8月7日後発
本省 8月8日前着

第四六〇號
貴電第一四四號ニ關シ

御來示ノ點「エドワーズ」ヲ通シ經濟聯盟ノ考慮ヲ促シ置キタル處今般「バ」卿ヨリ書面ヲ以テ日滿兩國政府當(局)カ經聯ノ立場ニ好意的考慮ヲ加ヘ對英註文ニ付眞面目ニ攻究ヲ加ヘラレツツアルコト感謝スルト共ニ經聯カ滿洲國農產品ノ對英輸出ニ付努力シ居ルコトハ歸英後ノ報告ニ依リテモ分明ナルヘク現ニ滿洲國統計ニ依ルモ滿洲品ノ對英輸出ハ一九三三年以來客年迄約三倍ニ増加シ大豆ノ如キモ同期間中二六百萬元ヨリ一千八百萬元ニ増加シ之ニ反シ英國

リ

162
昭和11年8月6日 有田外務大臣より
在英國吉田大使宛(電報)

日英兩國の關係改善に向けた動きに関する新聞報道について

本省 8月6日後7時10分発

*
第一五八號

六日ノ東京朝日ハ五日貴地發特電トシテ英國當局ハ最近日英親善協力關係再建ノ必要ヲ痛感シ「イーデン」外相「ホーア」海相「チエムバレン」藏相等ハ既ニ數回ニ亘リ吉田大使ト會見シ日本ノ主張ヲ吟味セル旨並ニ「ホーア」海相ハ

(一)日本ハ支那ノ領土保全、門戶開放及ヒ英國ノ在支權益ヲ確認シ英國ハ滿洲國ノ獨立ヲ承認シ其ノ開發ニ協力シ且ツ日本ノ北支ニ於ケル特殊權益ヲ承認ス
(二)日英通商交渉ヲ再開シ調節策ヲ講ス
(三)日本ノ倫敦新海軍條約ニ對スル同意ヲ確保ス
トノ三點ヲ基礎トスル日英協力私案ヲ用意シ居ル旨ヲ傳

品ノ對滿輸出ハ其ノ間何等ノ増減ヲ見サリシ實情ニ付今後トモ滿洲國品ノ購入ニ付テハ十分努力スヘキヲ以テ右ノ次第滿洲國當局ニ篤ト御説明アリ度ク同時ニ英國品ノ註文ニ付本件契約ノ履行方此ノ上トモ盡力ヲ得度旨申越シタリ又「エドワーズ」ハ大豆關稅引上問題ニ付テハ客年五月二十日附謝大臣宛委細申進ノ通ナル旨申シ居レリ尙貴電末段在奉天英國總領事ヲ通ストノ案ハ本件カ對英宣傳ヲ主眼トスルニ鑑ミ有效ナラサルヲ以テ當初ハ矢張り直接經聯ニ引合註文ヲ發セラル様致度シ就テハ其ノ後何等具體的決定アリタルヤ御回電ヲ請フ

164
昭和11年8月8日 在英國吉田大使より
有田外務大臣宛(電報)

日英協調に関する新聞報道の真相と英國側の反応について

ロンドン 8月8日後発
本省 8月9日前着

*
第四六二號
貴電ニ關シ

訓電解讀ニ時間ヲ要シ當方カ之ヲ了承セルハ僅ニ兩三日前ノコト故素ヨリ朝日特派員ニ洩レ又ハ同人カ感知セル筈ナシ昨今ノ日英關係ニ顧ミ「シテイ」在住ノ日本人若ハ極東ニ關係有スル英人間ニハ本件報道内容程度ノコトハ一種ノ常識ニテ夫レ以前ヨリ時々噂ニ上リ本使來任ノ初ニモ將又副島伯來英ノ前後ニモ日英交渉ノ風説ヲ傳ヘタリ唯本件ハ同特派員カ偶々本使カ會見シタル英國要路ノ名ヲ聞知シ更ニ聞込ノ事實ニ半ハ想像ヲ交ヘ發電シタルモノノ如シ時偶々御來訓ト前後シタルカ爲御懸念ノ種トナリタルモ其ノ發電ノ真相ハ上述ノ範圍ヲ出テスト存セラルハ日「タイムス」ハ東京通信員ヨリノ日英協調ニ關スル朝日ノ論説ノ批判及之ニ對スル長文ノ論説(別電第四六三號)ヲ揭ケ居レリ右論説ニハ相當「ブラフ」モアリ外務省邊ノ意嚮ト思ハレル節モアリ兎ニ角朝日ノ記事ハ英國側ニ一應ノ刺戟ヲ與ヘ他面ニハ協議自体ニ對シ英國側カ相當關心ヲ有スルモノトモ見ラレサルニアラス兎ニ角朝日ノ記事ハ「バロン、デッセ」位ノ役目ヲ爲シタルヘク本日「カドガン」ニ會ヒタルモ別段本件ニ付何トモ言ハス外務省側モ冷靜ニ構ヘ居ルモノノ如クニ付當方ヨリ餘リ本件ヲ取立テサル方然ルヘ

様致度ク結果御同電ヲ請フ松岡總裁、三菱商事船田一雄氏ヘハ過日私書ヲ出シ置キタリ

166 昭和11年10月14日 有田外務大臣より
在英國吉田大使宛(電報)

英國國王戴冠式に天皇の名代として秩父宮出席の旨伝達

本省 10月14日後7時30分發

第二一八號(絶對極秘)

英國皇帝陛下ノ戴冠式ニハ御名代トシテ秩父宮殿下ヲ御差遣アラセラレ殿下ニハ妃殿下御同伴御渡英ノコトニ御内定相成又隨員ハ高等官約八名判任官及侍女四、五名ノ豫定ナル趣ナリ尙在京英國大使ヨリノ招待狀ニ依レハ A Representative トアル處殿下ニハ妃殿下御同伴儀式ニ御參列相成差支無キヤ又同大使ノ談ニ依レハ英國側ニ於テハ式場ニ入ラルヘキ御名代及隨員ハ三名ト致度希望ナル趣ナル處右ハ妃殿下ヲモ加ヘタル人數ナリヤ御確メノ上同電アリ度シ申迄モナク本件ハ當方ニテ發表セラルル迄絶對極秘ニ御取扱相成度シ

シト考ヘ通信員側ニハ差當リ何等ノ手段ヲ執ラス暫ク本問題ノ反響ヲ靜ニ見送り度シト考ヘ居レリ

165 昭和11年9月21日 在英國吉田大使より
有田外務大臣宛(電報)

満州國が英國産業連盟との契約履行を困難とする場合には日本側による代替発注を検討する意見具申

ロンドン 9月21日後發
本省 9月22日前着

第五二七號

往電第四六〇號ニ關シ「バーンビー、ミツシヨン」ニ關スル件)

本件ハ其ノ後滿洲國側ト御協議中ノコトト存スルモ多少ナリトモ本件ヲ履行シ先方ノ面目ヲ立テ氣分緩和ヲ計ルコト肝要ト存セラルルニ付若シ滿洲國側ニテ俄ニ本件ヲ實行スルコト困難ナル事情アリトセハ滿鐵其ノ他三井、三菱、陸海軍等ト御協議ノ上日本側ヨリ少額ノ註文ニテモ本件契約履行ニ代ルヘキモノトシテ F、B、I ニ註文ヲ發セラルル

167 昭和11年11月14日 在英國吉田大使より
有田外務大臣宛(電報)

日英關係好転の兆しに鑑み日独防共協定の發表延期ないし不發表方意見具申

ロンドン 11月14日後發
本省 11月15日前着

*第六二六號

貴電合第九一八號ニ關シ

日獨對蘇同盟說ハ時々當地ニ於テモ流布セラレ時々英人側ヨリ質問モセラレタルコトアルハ既報ノ通ナリ當國ノ國防問題再開後ノ議會ノ討議ニ上レル以來益々反獨感情ヲ刺戟シ大戰當時ノ記憶ヲモ呼返シツツアルハ往電第六二五號「チャーチル」ノ演說論調ニ付テモ明カナル處最近日支問題及基隆事件等日英關係ニ影響アルヘキ事件ノ續出ニ拘ラス日濠、日印通商協議モ多少展開シ日本公債騰貴等日英ノ關係好轉ノ兆アル一面外相トノ話合モ關係係官ニテ目下研究中ト迄進ミ居ル此ノ際ニ付日獨協定發表ハ成ルヘク其ノ期日ヲ遲ラシメラレ度ク場合ニ依リテハ不發表ノ儘ニ致サル様當方ノミノ立場ヨリセハ希望セサルヲ得ス勿論對獨

關係上特殊ノ事情アル場合ニハ格別ナルモ該協定ノ發表ハ種々流説ヲ生スヘキ惧モ少カラス國際關係最機微ナル當今別ケテ慎重ニ考慮ヲ切望ス

168

昭和11年11月17日

在英國吉田大使より
有田外務大臣宛(電報)

日独防共協定成立の風評に警戒感を示す英國外相からの問合せに対する今後の応酬振り請訓

ロンドン 11月17日後着

本省 11月18日前着

第六三一號

往電第六三〇號ニ引續キ本日(十六日)余ノ耳ニセル風説ニ依レハ日獨間ニ第三國ニ對シテノ或協定カ成立セルヤニ聞及ヘリ果シテ然ルヤ否ヤ貴官ニ於テ經緯御承知ナラハ承リ度ク本件ノ成行及基隆事件ハ當國政府ノ等シク重視スル所ニシテ其ノ發展如何ニ依リテハ日英國交調整問題モ自然差控ヘサルヲ得スト述ヘタルニ付本使ハ在獨邦人中反共主義ノ問題ニ付テハ日獨間共同ノ利害關係アリトノ考一部ニ行

電請フ

169

昭和11年11月19日

在英國吉田大使より
有田外務大臣宛(電報)

日独防共協定は反共協定である旨英國政府に
内報後適切に公表するよう意見具申

ロンドン 11月19日前着

本省 11月19日後着

第六三九號

「日獨協定説ニ關スル新聞記事ハ累次電報ノ通りニテ又該協定ニ關スル當國輿論ノ傾向ハ特情電第一八號「タイムス」社説内容ニ依リ最露骨ニ表示セラレタリト存ス而シテ右ノ如キ反響ヲ捲起セル主因ハ

(一)本協定カ其ノ公表セラルコトアルヘキ案文ノ如何ニ拘ラス實質上對蘇軍事協定タルヘキコト

(二)伊ノ參加ヲ斷定シ所謂專政的政治色彩國ノ「プロツク」ヲ形成シ第三國ニ對抗セントスルモノナルコト
ノ二點ニアルカ如シ

ニ十四日貴大臣在日蘇大使會談内容ハ往電第六三六號報告

ハレ頻リニ其ノ説ヲ主張スル者アルコトハ承知シ居ルモ日獨政府ノ間ニ如何ナル話合アルヤ承知セス帝國政府モ同様ノ風評ノ傳播セラルルヲ憂ヒ右風評ヲ打消スヘキ旨ノ訓令ニ數日前接セリト一應答ヘ置キ

尙第三國ト言ハルハ蘇聯ヲ指スモノト思考スル處反共主義ニ付テハ英國政府ト「リツペントロップ」トノ間ニ話合アリタリトノ噂ヲ聞ケリト言ヘル處外相ハ之ヲ否認スルト共ニ共產主義ノ英國ニ這入ルコトハ素ヨリ希望セス然レ共他國ニ存在スルモノ迄之ヲ敵視スルノ氣持ナシ日獨間ニ蘇ヲ目標トシテノ協約成立ナレハ自分ノ議會ニ於ケル演説ニ依リテモ御覽ノ通り特定第三國目當ノ特殊ノ外交ニハ加擔シ難ク從テ日英國交調整ノ問題モ此ノ點ヨリ考慮セサルヘカラスト述フ本使ハ餘リ深入スルハ如何カト考ヘ本國政府ニ問合スヘシト言ヒ置キタリ

本件ニ付テハ上海、南京方面ヨリ頻リニ風説流布セラレ當國政府ノ注意ヲ惹キタルモノト存スルカ現ニ「リツペントロップ」モ當地ニ着任シ居リ英獨ノ間如何ナル話合アリタルカ分明セス餘リ空々シキ打消モ如何ニヤトモ考ヘラレ以上ノ通り簡單ニ回答ヲ打切レルカ今後ノ應酬振返シ御同

170

昭和11年12月25日

在英國吉田大使より
有田外務大臣宛(電報)

日独防共協定を背景とする対独感情の悪化と
その対日感情への波及について

ロンドン 12月25日前着

本省 12月25日後着

第七三七號(館長符號扱)

貴電第二九五號ニ關シ(英國ニ於ケル親獨的勢力ニ關スル

(件)

調査ノ結果左ニ電報ス

「英獨人ノ如キ人種的、血族的關係ノ比較的濃密ナルモノノ間ニ付英ノ一部ニ其ノ何レノ時ヲ問ハス親獨の傾向ヲ抱ク者アルハ蓋シ自然ノ理ニ屬ス(尤モ Volksischer Beobachter 倫敦通信員 Seihert ノ如キハ英文化ハ Germanic ト言ハンヨリハ Romano-Classical ナリトス)而シテ親獨傾向最近ノ現レトシテハ先般「アングロジャーマンフエローシツプ」組織セラレ其ノ本月十五日「リツペントロツプ」夫妻歡迎ノ爲催セル晚餐會ニ列セル者數百ニ及ヒ盛會ナリシヲ擧ケ得ヘシ右ニ關係セル「マウンテンブル」、「ロンドンデリー」兩卿ハ當國上流階級中ノ親獨家トシテ有名ナリ中流階級ノ者モ獨ニ旅行滞在スル者モ常ニ少カラス佛人ノ金錢其ノ他物質的執着激シキト比較シ獨人ヲヨリ好マント漠然ト感得シ歸來スル者多シ他方英獨間通商經濟關係モ亦佛トノ夫レニ比シ緊密(「ジュリアンピゴット」談ニシテ英獨「クレヂツト」協定ハ兩國關係ヲ密接ナラシムルニ與リテ力アリト爲ス者アリ(F、B、I 理事「ロコク」)

ノ演説ナリト評セルモノアリシカ右ハ「リ」本來ノ使命タル英獨接近ノ爲 particularly unhappy ト認メラレツツアリトノ記事ヲ載セタルノミ而モ爾來「シャハト」ノ植民地論ト共ニ新聞ハ日々反獨の記事ヲ掲ケ居リ往電第七三八號ハ一例ニ過キス又英獨經濟關係ニ付テモ獨ノ海外輸出獎勵金政策ハ英ニ多大ノ苦痛ヲ與ヘ自然對獨感情ニ惡影響ヲ與フルモノナリト爲スモノアリ(「ロコック」)

四 獨ハ今ヤ當國殊ニ倫敦ニ於ケル宣傳ノ爲巨額ノ支出ヲ爲シ諸般ノ宴會(前記晚餐會ノ出席者多數ナリシニ拘ラス主立チタル者少カリシト言フ)及商業會議所ヲ通シ頻ニ對獨好感ヲ煽リ居リ何等決定的效果ヲ收メ居ラス(「ボスト」ノ「グイン」ノ言「英國民上下等シク歐洲目下ノ不安ハ主トシテ獨ノ態度ニ基キ軍擴ノ爲英人ノ拂ヒツツアル犠牲モ畢竟獨再軍備ニ基因スルコトヲ(脱)有力親獨家ト雖モ此ノ際其ノ自説ヲ公ニスル機會少キモノノ如シ

五、⁽⁴⁾之ヲ要スルニ當國最近ノ對獨感情如何ハ(一)前顯「リ」演説ニ對スル反應(二)「ジャーマン、チヨイス」ト題スル二十一日「タイムス」社説ノ二者ニ依リ表示セラレ更ニ其ノ最如實ナル表現ハ前記獨逸公債最近ノ暴落ナリト言フ

二、右ノ如キ背景アルニ拘ラス當國ノ對獨感情ノ次第二惡化シ來レルハ其ノ再軍備其ノ他條約ノ一方的廢棄竝ニ猶太人迫害ニ其ノ因ヲ認メ得ヘシ尤モ「ライン」出兵不可侵協定提唱當時ハ當國ノ輿論ハ寧ロ好意的ニシテ「クロニクル」、「ヘラルド」ノ如キスラ獨ノ立場ニ同情的措辭ヲ惜マサリキ左レト一時好轉セシヤニ見エタル右氣分モ其

ノ後漸次ニ冷却シ再軍備硬化、西歐安定問題ニ對スル態度決定遷延、植民地要求ト共ニ強化シ日獨協定發表ニ至リテハ思想的「ブロック」對立ノ形勢ヲ愈強化スルモノナリトテ囂々ノ聲ヲ生セリ之ヲ當國市場獨公債ノ相場ニ就テ見ルニ七分利附ハ「ライン」出兵直前六日五十八ナリシヲ直後ノ同九日二五十六ニ下落セルモ其ノ後漸次騰貴シ十月始ニ六十九ニ至リシモ爾後又下落ノ一路ヲ辿リ現今ハ四十五分一ノ低位ニアリ

前顯⁽³⁾「リ」ノ演説ハ植民地反共問題等ニ言及シ(獨人カ相手方ノ氣持ヲ觀取シ之ニ應スル言動ニ出ツルニ切ナル一證左ト言フヘシ)當時各紙ハ其ノ演説殆ト全部ヲ掲載セル一面社説ニ於テ之ヲ論評セルモノナク「ガーデア」ハ雜報欄内ニ當夜出席者中右演説ヲ評シ宣傳政治家

ヘシ右社説ニハ獨ハ頻リニ共產主義ノ脅威ヲ強調シ居ルモ眞ニ之ニ對抗シ得ルハ軍事的、外交的ノモノニハアラスシテ生活ノ向上即チ經濟的繁榮ニアリ而シテ獨ノ態度ハ政治的、經濟的協調ニアラスシテ一方的讓歩ノ要求ナリトテ猛省ヲ促シ平和ヘノ協力ヲ勸説セルモノナリ而シテ冒頭貴電最近英上下ノ對獨感情良好ナラサル際日獨協定締結セラレ自然英ノ對日感情惡化セリトノ點ハ遺憾ナラ事實ナリト認メサルヲ得サルモ本協定ハ對日關係ヨリモ更ニ對獨關係ニ於テ英國輿論ヲシテ惡化セシメ新聞紙上本協定後獨逸攻撃ハ一層甚タシク露骨トナレリト感セラル

編注 後日訂正通知により、「熟知シ居ルカ故ニ獨ヲ快シトセサルモ宜ニテ前顯」と追加された。

171

昭和11年12月26日

有田外務大臣より
在英国吉田大使、在カナダ加藤(外松)
公使宛電報

英國國王戴冠式出席のため秩父宮が明年三月
にカナダを経由して英國に向かう旨伝達

合第一〇四三號

本省 12月26日午後4時45分発

英國皇帝皇后兩陛下戴冠式舉行ニ付天皇陛下御名代トシテ秩父宮殿下ヲ同國へ差遣ハサレ且妃殿下御同伴相成ルヘキ旨御沙汰アリタル處兩殿下ニハ明年三月中旬横濱港出帆ノ平安丸ニ御乗船「カナダ」御經由紐育ヨリ英國汽船「クキーン、メリー」ニテ御着英公式御入京迄「ブライトン」ニ御滞在ノ御豫定ナル旨宮内省ヨリ通知アリタリ

「カナダ」宛在米大使へ轉電アリタシ

172

昭和11年12月26日

在英國吉田大使より
有田外務大臣宛(電報)

日英外交調整は貿易逆調改善および為替安定の観点から重要なもので具体的交渉に先立ち諸懸案の解決方意見具申

ロンドン 12月26日前発

本省 12月26日夜着

第七三九號(至急、館長符號披)

英國歳晩ノ好景氣ハ米國ト共ニ天下ノ春ヲ獨占スルノ感アリ

リ又斯ル情勢ニアルカ故ニ英側モ種々其ノ不快トスル事態ノ發生ニ拘ラス思ノ外ニ本使ノ希望ニ乘リ懸リ居ル次第ト察セラル殊ニ又貿易ノ大勢及爲替關係ニ於テ懸念少カラサル今日當局自ラ成算アルヘキヲ疑ハサルモ對英關係改善ニ依ルコト最捷徑ト考ヘラルルニ於テハ早キニ及ンテ充分用意ノ必要アリ對英關係ニ付テハ申ス迄モナキ儀乍ラ今後共一層御留意相成リ具體的交渉ニ入ルニ先立チ素地ヲ作ルニ御工夫相願度ク從テ左ノ如キモノヨリ順次ニ實現若ハ解決ニ導ク様更ニ一層ノ御考慮ヲ切望ス

③海軍事項(十四吋砲及華府條約第十九條ノ問題)

右ニ關スル經緯及本使所見ハ累次稟申シアルヲ以テ茲ニ再說セス本件殊ニ前者ニ對スル英側關心ノ程度ハ「ク」カ休暇中(四日ヨリ登省ノ筈)ノ出先ノ電話番號ヲ當方ヘ申殘シ何時ニテモ出京スヘシト言ヘルニ付テモ其ノ一端ヲ窺フヘク且右ノ問題ハ出來得ル限り何レモ妥協ヲ圖ル

*事項編注

昭和十一年の海軍軍縮問題をめぐる日英關係文書については既刊『日本外交文書 一九三五年ロンドン海軍會議』を併せて参照。

リ然レトモ歐大陸ノ情勢ニ想到スレハ肌自ラ寒カラサルヲ得サルヘシ獨ノ經濟的窮狀ハ屢次既電ノ如ク佛モ平衡資金ノ金保有高ハ減少ノ一方ニテ「フラン」現相場維持疑ハシク明年度ノ豫算成立スルモ國庫資金ノ不足ハ之ヲ如何ニスルヤ況ンヤ爾餘ノ諸國ニ至ツテハ論スルニ足ラス歐洲ノ情勢極度ニ悲觀スヘシトセハ英國亦目前ノ好景氣ヲ以テ自ラ安シ難カルヘキハ明カナリ翻テ我貿易ノ大勢昨今入超意外ニ大ニシテ爲替ノ維持亦益々困難窮迫ヲ感シ來リ我公債ノ市價ハ落調ニアリ其ノ主因ハ入超、歳出入ノ不均衡、來年度國防豫算ノ膨脹ニアルヘキモ我外交ニ對スル不滿ヨリ來ル對日不人氣モ與テ力ナシトセス之モ念トスヘカラスト言ハハ夫レ迄ナルモ貿易ノ逆調ハ回復セサルヘカラストセハ日英通商ノ改善モ之ヲ考ヘサルヲ得ス

爲替維持ノ要アリトセハ貿易ノ順調ヲ期スルノ外我高利外債ノ借換英國市場ニテノ新募債等モ遂ニハ考ヘサルヲ得ス而シテ歐大陸及英ノ情勢前述ノ如シトセハ極東ニ事生セハ英ノ長鞭遂ニ馬腹ニ及ハス我ニ賴ルノ外ナカルヘク即チ英ヲ誘フテ我希望ヲ容レシムルハ必スシモ利ナシトスヘカラスト本使ハ此ノ觀點ヨリ日英外交調整ノ御趣旨貫徹ニ努メ居

コト大局上ヨリ可ナルハ本使ノ確信スル所ナリ

ニ、對F、B、I註文發送

本件ハ本使出發當時特ニ貴大臣ニ於テ御考慮セラルル所アリタリトF、B、I側ニ申告ケタル次第モアルニ付滿洲側ト限ラス我方ヨリ引合文ケニテモ速ニ開始スル様致度シ

三、基隆事件

外(相)ノ立場モアリ今更有耶無耶ニ葬リ難カルヘク左リトテ無根ノ事實ハ我ニ於テ認メ難キヲ以テ英側ニ充分事態ヲ了解納得セシムルノ手段ヲ講スルノ外ナシ依テ電第七三六號又ハ類似ノ「ライン」ニテ右實現方御取計願度シ